

新教育委員会制度による教育委員会の活性化

埼玉県戸田市教育委員会 教育長 戸ヶ崎 勤



1 戸田市について

戸田市は、埼玉県の南東部に位置し、荒川の自然に恵まれ、江戸時代には中山道の「戸田の渡し」が設置され、交通の要衝として栄えてきたまちです。また、昭和39年の東京オリンピックをはじめ、各種国際大会や国民体育大会のボート競技会場となる「戸田ボートコース」や年間100万人以上が訪れる「彩湖・道満グリーンパーク」などがあり、水と緑豊かなまちです。

昭和41年、県下24番目の市として誕生した戸田市は、平成28年10月に市制施行50周年を迎えました。この50年間で人口は2倍以上に増加し今後も増加が続くことが予測されています。

また、JR埼京線、首都高速5号線、東京外郭環状道路などの交通網を基盤として、印刷関連業や流通産業などを中心に産業も活発であり、「人の利」と「地の利」に恵まれた、将来にわたって持続可能なポテンシャルの高いまちであると言えます。

人口 約13万7千人

平均年齢 39.7歳

小学校12校、中学校6校

児童数 約8,100人

生徒数 約3,400人（平成28年11月現在）

2 戸田市の教育改革について

今般の地教行法の改正に伴い、戸田市では平成27年度当初から新教育委員会制度に移行し、戸田市の教育振興に関する大綱や第3次戸田市教育振興計画を策定しました。

それとともに、これからの激しく変化し、先

の見えにくい社会に生きる子供たちに必要な教育を見据え、産官学民と連携した先進的な教育を推進しており、戸田市の教育が大きく変わりつつあります。

特に、人工知能では代替できないと言われる3つのスキルである、「21世紀型スキル」、「汎用的スキル」、「非認知スキル」を子供たちに身に付けさせたい能力と考え、それらを育成するため、「新しい学びの創造」、「指導力のある教職員の育成」、「新たな教育行政への転換」等を戸田市の教育改革の柱としています（別紙①参照）。

産官学民の知のリソースを活用した国内初のような取組も行っており、特に、アクティブ・ラーニングによる授業改善に資する指導用や児童生徒自己評価用のルーブリックの開発、リーディングスキルテスト、プログラミング教育、経済教育、エビデンスに基づく効果検証、総合的な教師力の向上研修などは、多方面から注目していただいています。

■第3次戸田市教育振興計画



教育振興計画審議会会長
慶応義塾大学
中室 牧子 准教授

■戸田市が目指す児童生徒像



3 教育長としての職務に対する基本姿勢

埼玉県内で住民の平均年齢が最も若く、人口が増え続けている戸田市においては、教育や子育てを今後の一層のセールスポイントとすべきであるとの思いは、市長とも共有しています。教育を改革充実することは、地方創生とまちづくりの有効な手段にもなるはずです。財政力指数が高く、地方交付税不交付団体である戸田市といえども、今後ますます財政が厳しくなる中、教育に関する事業もエビデンスベースやコストパフォーマンスを念頭に、選択と集中で見直しなどを図っていく必要があると考えています。

地方自治法にもあるように、最小の経費で最大の効果を挙げられるよう、教育シンクタンクを構築し、様々な知のリソースを活用していきたいと考えています。地域人材のほか、文部科学省をはじめ、多くの大学や国の研究機関、民間企業など、産官学民との連携を今後も一層進めたいと考えています。

学びの改革を進める民間などのスピードは教育行政とは段違いです。教育とテクノロジーを融合させ、新しいイノベーションを起こそうと躍起になっています。産官学民と連携することで、戸田市の中の限られた知見だけではなく、専門的な見地から幅広く様々な知見を取り入れ

ることができ、安価で質の高い学びが提供されるものと考えています。

また、県内外をもリードする、将来を見据えた最先端の教育が提供されるとともに、将来的に学校教育や生涯学習の補完の役をも果たしてもらえるものと考えています。

その際留意すべきは、教育委員会や学校がその研究やサービスの単なる受益者や消費者に陥らないようにすることです。戸田市教育委員会が民間などとの協働者や活用者となり、主体的に自己の問題を解決する意志や知見をもつ必要があります。そのためには、戸田市の教育に携わる者全てが学び続けることが必要であり、「学び続ける教育委員会」をモットーとしています。

4 教育委員会会議の運営上の工夫

教育委員会会議をより活発にするため、議事や報告の追認だけでなく、教育委員自らの提案による議題の設定（教育委員提案制度）を会議ごとに行ったり、学校訪問の際に教育委員が同行したりするなど、教育委員が主体性を発揮できるよう心がけています。その際、以下の観点も徹底するよう心がけています。

【教育委員会活性化の心構え】

- 教育委員は教育委員会事務局の上司であるという意識をもつ。
- 事務局が知っていて、教育委員が知らないことがないように、壁をなくす努力をする。
- 事務局で結論が出ていないことでも事前に教育委員に報告し、共に知恵を出し合う。
- 教育委員が発言しやすい環境づくりをする。
- 教育委員会会議では、必ず教育委員提案をいただく。
- 事務局は、できるだけわかりやすく、丁寧な説明を心がける。
- 国や県の通知や最新の教育情報を随時教育委員に提供する。
- 教育委員向けの研修を実施する。

■過去の教育委員提案議題

開催月		教育委員提案議題
平成27年度	7	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題に対する取組について ・第1回いじめ問題対策連絡協議会について ・いじめ対応プログラムについて
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・県学力・学習状況調査の結果について ・ICTの活用状況について
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・第3次戸田市教育振興計画策定の進捗状況について
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・夕焼けチャームについて ・特別支援教育について ・教職員表彰について
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田市の教育改革について ・英語教育の今後の展望について ・教育相談体制の強化について
開催月		教育委員提案議題
平成27年度	12	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上について ・教員の多忙化対策について ・学力向上に向けたその後の新しい取組について ・知のリソースの活用について
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の多忙化対策について
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間中学について ・今後の図書館の在り方について
平成28年度	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上に向けたその後の新しい取組について ・教員の負担軽減について ・地域や家庭との関わりについて
平成28年度	5	<ul style="list-style-type: none"> ・県学力・学習状況調査と教員質問紙調査の分析と活用により期待される効果について ・アクティブ・ラーニングの実践例と保護者へのPRについて ・小中一貫教育について ・英語教育について
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修について ・教育委員研修について ・学校のマネジメント力について
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・給食費の未納対策について ・「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(中央教育審議会答申)について ・ICT推進計画について
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の多忙化対策について ・経済教育について
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・戸田市立小中一貫型小学校・中学校設立準備状況について

		<ul style="list-style-type: none"> ・県大会以上出場のとだっ子の活躍について
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季教員研修について ・第4次戸田市生涯学習推進計画の進捗状況について
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器等の活用状況について ・アクティブ・ラーニングの進捗状況について ・教育委員研修について

その他にも、校長が教育委員に対し、学校運営に対する考え方、運営方針について説明する機会も設けています。

新教育委員会制度に移行して約1年半が経過しましたが、これらの取組を実施することで、事務局は、教育に関する様々な情報やデータを教育委員に丁寧かつわかりやすく伝えるよう心がけるようになりました。また、教育委員は、事務局が示した情報が市民の多様な意見や希望、期待に的確に答えているのかなど、「教育長に対するチェック機能」も向上しているように感じています。

また、委員自ら各種研修会に積極的に参加したり、事務局主催の教育委員研修の実施を自ら求めたりするなど、教育委員としての資質能力の向上に積極的に取り組んで来ています。

その結果、学校教育のみならず、生涯学習など多方面において教育委員の考えが活かされつつあります。

■平成28年度 教育委員対象の研修

	研修名
1	教育委員会の職務権限について
2	新しい学びを促すタブレットを使った学習コンテンツの実技体験研修
3	学校施設管理について
4	高等教育への修学支援制度について
5	学校給食の運営について
6	学校給食における食物アレルギーへの対応について
7	図書館業務の概要について
8	学校給食の衛生管理について
9	公民館事業について

5 市長部局との連携

戸田市では、従来から市長と教育委員会とが密接に連携し、意思疎通を図ってきました。新教育委員会制度に移行してからは、これまで以上に教育の課題や教育のあるべき姿を共有しています。

市長部局、関連機関と連携した取組の一例としては、市長部局及び教育委員会、学校、関係機関が連携し、いじめの防止と重大事態が発生した場合の対策として、全国初の「いじめ重大事態対応訓練」の実施や、児童生徒の健全育成のための「生徒指導アクションプラン」の作成と実践などがあります。



(H27. 9. 24 いじめ重大事態対応訓練の様子)

また、経済状況や家庭環境などによる進学機会や学力などの格差がその後の就労・賃金の格差にもつながるとの指摘があります。そこで、誰もが多様な学習機会にアクセスできる、学びのセーフティネットの構築についても、市長部局と連携し、これまで築いた知のリソースを生かしながら開始したところです。

さらに、地教行法の改正に伴い、総合教育会議の設置が義務付けられましたが、今年度、総合教育会議の開催の他に、総合教育会議のメンバーに市議会の教育関係常任委員会の議員を加えた「拡大総合教育会議」を実施し、教育の課題や教育のあるべき姿を共有する試みも実施しました。予算や条例等の議決機関である議会と、執行機関である市長と教育委員会の三者が合同

で教育行政について意見交換することは、大きな意味があると思っています。



(H28. 10. 25 拡大総合教育会議の様子)

6 教育委員会の取組に関する情報発信

新教育委員会制度移行後、様々な教育改革を実施していますが、保護者や市民目線での、わかりやすい広報・PRの実施の必要性を強く感じていました。

従来から教育委員会会議の詳細な会議録及び資料をホームページで公開していますが、会議録は広く市民の皆様にご覧いただけるものではありません。

そこで、まず、戸田市の教育がどのように変わるのか(変わったか)、特集記事を市の広報誌に掲載しました(別紙②参照)。

また、戸田市教育委員会のホームページを全面的にリニューアルし、新たに教育委員会のFacebookを開設しました。

Facebookは、土日祝日を含め、基本的にはほぼ毎日更新を行い、教育委員会の事業や各学校の取組の紹介など、多くの情報を掲載しています(別紙③参照)。

教育委員は全員がFacebookでつながっており、さらに多くの市議会議員にも毎日チェックやシェアをしていただいております。そのことで、市民の皆様にも、これまでよりは情報が伝わるようになってきたと実感しています。

私個人もFacebookを開設し、私が委員を務めている中央教育審議会教育振興基本計画部会や全国的な学力調査に関する専門家会議の様子を

含め、教育に関する話題などを毎日発信しています。



■戸田市教育委員会ホームページ

<http://www.toda-c.ed.jp/>

(全面的にリニューアルしました。)



■教育委員会会議録及び資料

<http://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/371/kyo-somu-kaigi-h28.html>

(詳細な会議録及び資料を公開しています。)



■戸田市教育委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/todaedu>

(ほぼ毎日更新しています。)



7 教育長として教育委員に期待すること

前述のとおり、新教育委員会制度に移行し、教育委員には、積極的に学校訪問や各学校の行事などに参加していただくようになりました。

そのことで、校長や教員をはじめ、市民等の要望や意見を聴き、それを集約する活動や自らの資質能力の向上に積極的に取り組んでいただいておりますので、今後もそれぞれの目線で積極的な実態把握に努めていただきたいと思います。そして、学校や地域の抱える問題に迅速に対応するとともに、戸田市の教育の充実発

展に引き続き御尽力をお願いしたいと思います。

また、教育長や教育委員会事務局がどのような仕事をし、どのような成果を得たのかチェックや評価をし、その結果を市民の皆様伝える活動をしていただくことも期待しています。

8 新教育委員会制度に移行して変わったこと

■市長のコメント

○新教育委員会制度への期待

(1) 学び続ける新教育長への期待

地域の教育行政に責任をもつ教育長は、誰よりも学び続ける存在であってほしい。また、教育理念だけでなく、エビデンスに基づいた政策立案や説明責任を果たしてほしい。

さらに、学校現場や市長部局と一層連携し、シティセールスのマネジメントも行ってほしい。

(2) 教育委員の役割への期待

教育委員には、教育長の補佐やチェック機能を十分果たしてほしい。

(3) 総合教育会議への期待

総合教育会議等では有意義な意見交換ができ、戸田市の教育に対して教育委員の皆さんと同じ思いであることを嬉しく思っている。その思いを現実化するプロセスを今後も共有したい。

■教育委員のコメント

○新制度に移行して非常勤の教育委員長と常勤の教育長が統一され、常勤職員の教育長がその任を担うことは、政策の実効性の向上や計画立案を迅速かつ実質化するうえで極めて有効である。なお有効であるからこそ、方向を誤ると限りなく偏った実施を行うことに通じかねない。その意味で、教育委員会での委員の行政に対するチェック・アンド・バランス機能が従来以上に重要視され、一般市民の教育行政への意見を代弁する委員の責任が増すことになったとの実感を持つ。この意味で委員は非常勤であるのが望ましく、また、必ずしも教育の専門家である必要はない。市民横断型の委員構成が望まれ、戸田市はこのような形態をとっている。

また、教育長の任命権は基本的には市長にあるので、教育行政の独自性が担保されなくなる場合もある。それゆえ市長と教育委員会が共通の教育目標に向かっていく時は強い実行力を発

揮するが、一端合意形成がなされなかったり、意見の違いがあったりする時は教育行政の中立性が保たれなくなる危険性が生じる。そのためにも物言える教育委員会の形成が重要である。

市長の教育方針を明確にし、それを教育大綱として市民に周知するとともに、総合教育会議の議論を通じて、行政の方針・実施について十分な意見交換をして、教育方針について理解と合意形成を図ることが不可欠である。戸田市ではパブリックコメントの聴取を含め、教育大綱を上記の仕組みと手続を経て発表している。また、総合教育会議、教育委員会の議事録等もすべて公開して、市民に発信をしている。さらに、議員が教育委員会を傍聴したり、議員との意見交換会を催したり、市の教育行政についての相互の理解形成を行うための機会も設けている。

なお、いじめ対策においても市長を中心に学校、教育委員会、弁護士、精神科医、臨床心理士等の専門家との連携体制が整えられ、いじめの段階に応じた会議の開催とその運営に関するマニュアル等も整備され、適切かつ迅速な対応が取られるようになってきている。

教育は、常日頃の積み重ねが成果として出てくるものである。したがって、教育大綱に基づき日常の教育活動の運営を市としてバックアップし、現場の教員と児童生徒にとって教えやすい学びやすい環境を整えることに腐心することが重要で、戸田市もこの点を強く認識していると言えよう。この意味で、教員、教育委員会、保護者、そして地域住民の教育への関心の共有と連携が重要であり、血の通った教育行政の実行とそれへの信頼が必要不可欠である。

○教育委員提案制度により、従来の受動的参加（追認方式）から積極的に発言や提案ができるようになり、教育委員の参画意識が高まり、活動が主体的・能動的になった。

教育行政の根幹は、現場主義の徹底である。気兼ねなく学校訪問ができるようになり、現場で得た情報で最適な基本方針の策定ができるようになった。また、教育委員協議会（プレ教育委員会等を含む。）で情報の共有が実現し、教育委員の研修意識が高まった。

○総合教育会議の設置により、戸田市の教育改

革や教育の全体像が明確になり、スピーディに市広報等を通して市民に周知された。市長と教育委員会の意思疎通の場合は、市議会の常任委員にまで拡大され、教育波及に効果がみられた。

新教育長になってからは、多くの資料と丁寧な説明により教育内容が把握しやすくなり、会議が従来よりも活性化された。また、教育委員提案制度は、時の課題に触れる深まりのある協議となっている。

さらに、Facebookによる情報発信、教育委員研修も実施され、一方的に受け取る立場から常に学び考えていく委員の姿勢が求められた。

学校現場に訪問する機会も多くなり、学校経営・運営の諸課題や児童生徒の活動がわかるようになり、会議へ臨む意識の変容が生まれた。○教育委員会会議では、意見が言いやすくなり、学校訪問も気軽に行けるようになった。

産官学民と積極的に連携した先進的な教育施策が導入され、市民、また保護者として誇りに思うが、子供と向き合う時間が確保されているかどうかなど、チェック機能を果たしていくとともに、新たな教育の動向に対して学び続ける教育委員でいなければならないと感じる。

■校長のコメント

○新教育委員会制度になったことで、常々市長が「教育による『人づくり』こそが、持続的に発展する戸田市を創ることであり、教育は未来への投資です」と言われていることが、ストレートに学校現場に伝わってくる。

また、教育行政トップである教育長が教育委員会を所掌することにより、迅速に教育振興の流れが受け取れ、学校経営に反映することができる。教育長の強いリーダーシップが、学校現場を大いに活性化している。

■市議会議員のコメント

○「いまのは答弁になっていない。委員からの質問内容にきちんと答えるように」

いま思えば、平成27年4月に新教育委員会制度のもとで初めて開催された教育委員会定例会での教育長のこの一言によって、すべてが動き出したように感じる。

現在の教育委員会定例会は、“戸田市の教育を

議論する場”となっている。教育委員は、学校訪問や研修に積極的に参加し学び続け、戸田市の教育を真剣に考え、議論している。傍聴していて、議論に参加したい気持ちを抑えるのが大変なほど白熱している。

いまや、戸田市の教育の先端にいるのは、教育委員会事務局でも議会でもなく「教育委員会」だと感じる。その反面、議会側も戸田市の教育の動向をきちんとフォローしていかないと、教育委員会に後れをとってしまうのではないかとという危機感を持っている。

私の毎月の楽しみにもなっている教育委員会定例会の傍聴を、これからも続けていきたいと思う。



戸田市 教育改革プログラム～産官学民の知のリソースの活用～

「超スマート社会 (Society5.0)」、 「IoT」、 「第4次産業革命」の到来

変化が激しく将来の予測が困難な時代にあっても、自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができる「とだっ子」の育成

非認知スキルの育成

21世紀スキルの育成

汎用的スキルの育成

人工知能では代替できない能力の育成

人工知能を活用できる力の育成



戸田市版 「アクティブ・ラーニング ルーブリック」の開発

(育てたい資質・能力ルーブリック × 指導用ルーブリック × 児童生徒自己評価用ルーブリック)

主体的・対話的で深い学び (アクティブ・ラーニング) による不断の授業改善

カリキュラム・マネジメント

社会に開かれた教育課程の実現

指導力のある教職員の育成

新しい学びの創造

協調学習の推進 (CoREFとの連携)

ICT機器を活用した教育の推進 (Google、リクルート、ベネッセとの連携)

リーディング・スキルの育成 (国立情報学研究所との連携)

英語教育の充実 低学年10h 中高学年70h 英検 公益財団法人 日本英語検定協会 英検3級全額補助(全中3生)

- 文部科学省委託事業
- 1 アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善のための事業
 - 2 総合的な教師力向上のための調査研究事業
 - 3 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業
 - 4 チーム学校の実現に向けた業務改善推進事業

Intel(R) Teach Programの活用 (インテル、キャリアリンクとの連携)

様々な研修を受講したフェロー(教師)の派遣 (Teach FOR JAPANとの連携)

家庭学習等の充実

放課後・長期休業中の学習塾連携 (栄光ゼミナールとの連携)

タブレットPCによる家庭学習支援 (凸版印刷、リクルート、ジャストシステムとの連携)

総合的な学習の時間の改善

プログラミング教育の推進 ※小・中一貫カリキュラムの作成 (インテル、ベネッセ、CodeforTODAとの連携)

経済教育の推進 戸田市経済教育マイスターの育成 (CEEジャパン、青山学院大学との連携)

企業との連携によるインパクト投資

エビデンスベースによる教育施策の推進

埼玉県学力・学習状況調査 (IRT) 等の活用 (慶應大学・国立教育政策研究所との連携)

教科テストと合科型テスト (GPS) の活用 (ベネッセとの連携)



戸田市の教育が大き く変わります!

～産官学民と連携した、将来を見据えた先進的な教育の推進～

市は、平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」に基づき、「戸田市の教育振興に関する大綱」を定め、平成28年4月1日に施行しました。今回は、その大綱と、とだっ子の確かな未来へ向けた施策や方向性をご紹介します。
○問い合わせ 教育政策室(内線336)

戸田市が目指す「とだっ子像」

希望を持ち、思いやり、未来を拓くため 最後までやり抜く児童生徒



英語力を大幅に向上

- 小学校1年生からの英語活動
- 中学校3年生を対象とした英検3級受検費用の補助
- 小・中学校全校にALTを常駐

全国に先駆けたICT環境の整備

- 全校にタブレットパソコン、全教室・体育館に無線LANを整備
- ベネッセコーポレーションとの包括協定のもと、ICTを生かした「新しい学び」の創造(EdTech Lab@戸田)
- グーグル(株)との連携によるchromebookを活用したパイロット事業



大学や国の研究機関と積極的に連携

- 東京大学、青山学院大学、お茶の水女子大学、埼玉大学などの高等教育機関や国立情報学研究所などの国の研究機関との連携

自ら課題解決ができる力の向上 (21世紀型の学力の育成)

- 東京大学などと連携したアクティブ・ラーニングの推進
- 国立教育政策研究所と連携した戸田市オリジナルの協調学習(Tジグソー)の研究
- プレゼンテーションコンテストの実施
- 全国および埼玉県学力調査の分析と活用



民間企業やNPO法人の力を活用した新しい学びの創造

- 学習塾による放課後などの学習教室の実施
- ベネッセコーポレーション、リクルートマーケティングパートナーズやインテル、Teach For Japanとも連携した先進的な教育

いじめに負けない力の育成

- 青山学院大学との包括協定による「戸田市いじめ対応プログラム」の作成、実践

運動の楽しさや魅力の実感

- 青山学院大学や国立スポーツ科学センターなどとの連携による、大学生や元オリンピック選手を招いた運動教室の実施

文部科学省も市の取り組みに注目



戸田市では、産官学民との連携など、他の自治体に先駆けたさまざまな教育改革に取り組みされており、新しい学びのイノベーションなどが起きるものと、文部科学省といたしましても大いに期待しています。

文部科学事務次官 前川 喜平 氏

文部科学省と協働した全国に先駆けた取り組み

- 「課題発見・解決に向けた主体的協働的な学びの推進事業」
- 「チーム学校の実現に向けた業務改善推進事業」
- 「総合的な教師力向上のための調査研究事業」(民間教育事業者の活用)など

◆教育委員会の組織改革 (文部科学省キャリア職員の出向)

教育委員会事務局に教育政策室を新設し、文部科学省から、渡部剛士氏が担当課長に就任しました。



「先進的な教育のまちといえば」と問われれば、「戸田市でしょ」という答えが返るよう取り組んでまいります。

第3次戸田市教育振興計画の策定

基本理念 生き生きと 共に育む 教育のまち 戸田
キャッチフレーズ 「とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を」

基本目標1

やり抜く力を育む教育を推進します～確かな学力の育成と生徒指導の充実～

基本目標2

よりよい教育環境を整備します～産官学民等との連携による知のリソースの活用～

●教育振興計画審議会会長から答申書を受領

教育再生実行会議有識者で慶應義塾大学総合政策学部准教授の中室牧子会長から答申書の提出を受けました。



教育振興計画を着実に推進し、子供たちがやり抜く力を身に付け、大きく成長することを願っています。また、エビデンス(科学的根拠)をもとに、新たな教育行政への転換に向けた取り組みを期待しています。

市長からのメッセージ

～戸田市の未来を創る「とだっ子」のために～

●戸田市の教育振興に関する大綱

私は、まちづくりの基本は人づくりであり、一人一人のよさを最大限に引き出し、「生きる力」を育成し人格を磨いていくことこそが教育に課せられた最大の使命であると考えています。これからの社会は激しく変化していくことが予測されています。グローバル化や情報化が一層加速し、人工知能(AI)やロボット開発などが進み、多くの仕事が自動化され、今ある仕事がなくなり、多くの子供たちは、現在まだない新たな職業に就くかもしれません。

そのような将来を見据えたとき、学校教育は、知識や技能の習得を重視した教育から、人工知能での代替は難しい、問題解決能力や思考力、コミュニケーション能力といった、いわゆる「21世紀型スキル」の育成へ転換していくことが急務であると考えています。一方で、社会がどんなに変化しようとも、基礎的な知識や技能を確実に身に付けること、他人を思いやる心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康

や体力など、知・徳・体をバランスよく育てることは、いつの世にも変わらない重要なことだと思っております。

さらに、最近の教育界では、「IQや学力の高さだけが人生の成功をもたらすわけではない。」との考えが注目されています。数値では測れない、粘り強さ、協調性、やり抜く力、自制心などの「非認知スキル」と呼ばれる能力が大切であるとの指摘です。この非認知スキルは、人生のあらゆる段階で不可欠な役割を果たします。とだっ子には、21世紀を生き抜くために、是非このような能力を身に付けてもらいたいと思っています。

昔から、「子供は家庭のしつけで芽を出し、学校の教えで花が咲き、地域の教えで実がなる」と言われています。戸田市の将来を担う子供たちの成長には、家庭・学校・地域社会の三者が、それぞれ適切な役割分担を果たしつつ、相互に連携して行われることが不可欠です。そこで、三者それぞれに、私なりに特に次のことをお願いしたいと思います。

家庭では

教育基本法第10条では、父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものと規定されています。父母は「習慣の教師である」とも言われ、人間の芯になる部分は家庭教育でつくられます。あいさつ、返事、手伝い、整理整頓などの基本的な生活習慣は、特にしっかりとつけてください。

学校では

子供は先生を選べません。書経に「教うるは学ぶの半ばなり」とあります。校長先生や教頭先生には、確かな学力の育成と生徒指導の充実を柱とし、「この学校なら是非自分の子を入れたい」というような地域に誇れる学校経営や運営を、また、先生方には、信頼される魅力ある教師を目指し、「自分の子は自分のような教師に教えてもらいたい」と思える、自信と誇りをもった教育実践をお願いします。

地域社会では

地域社会は大きな家族です。子供は地域社会の中で実践を通して生きる力を身に付け、社会人としての人格を形成していきます。モラルや規範意識などの醸成に近道はありません。地域の子育て力を育むためにも、積極的なあいさつや声かけとともに、親身に叱る勇気と愛情をもっていただくようお願いいたします。

すべての子供たちは、未来からの使者であると言われる。教育による「人づくり」こそが、持続的に発展する戸田市を創ることであり、教育は未来への投資です。戸田市で学んで本当によかった、今後も戸田市で学び続けたいと言っていたために、戸田市の教育振興の根本的な方針として、ここに「戸田市の教育振興に関する大綱」を定めます。

平成28年4月
戸田市長 神保国男





戸田市教育委員会facebook



戸田市教育委員会



| サイトマップ | お問い合わせ | 日本語 | ENGLISH | 中

Google™ Custom Search

検索

検索方法 文字の大きさ

学校教育

生涯学習

栞



戸田市教育委員会さんが写真3件を追加しました。

教育長の戸ヶ崎です。今日は、今年度最後の実施校となる美谷本小の運動会に出席しました。いつもながらに地域にしっかりと根付いた運動会の印象でした。午前の部は無事に終え、午後の部は27日に延期となりました。校長先生の決断が早かったため、片付け終了後に雨が降ってきました。

続いて、芦原小学校で開催されている戸田市小中学校児童生徒科学展覧会を神保市長とともに見学しました。市内全小中学校から32点が出品され、そのうちの6点が最優秀賞に選ばれました。いろいろな洗剤の汚れ落ち効果を確かめた実験や、建物の模型を実際に作り地震の影響を調べた実験など、子供ならではの柔軟な発想から生まれた様々な研究作品に、市長も感心していました。年々研究の質も向上しているように感じられ、将来、とどろきから多くの科学者が出ることを期待してやみません。



戸田市教育委員会

教育委員さんも研修中
本日、教育委員さんは、午前中に定例教育委員会、その後、総合教育会議に出席しました。
午後は市教育センターで行われている教員対象の「新しい学び研修」に参加し、実際にタブレット/パソコンを使って研修をしています。「新しい学び研修」は、児童生徒が「主体的・対話的で、深い学び（アクティブ・ラーニング）」ができる授業づくりの在り方を学ぶ研修です。
本市の教育委員さんは現場第一主義。一学期は学校訪問に数多く参加し、夏季休業中も積極的に活動していただいています。



戸田市教育委員会

本日、喜沢小学校にて、埼玉県教育委員会主催の学力向上プロジェクト教員研究協議会が行われ、南部管内の代表校として、授業を公開しました。

授業では、算数の「形が同じで大きさがちがう図形を調べよう」の学習において、タブレットを活用しながら、その性質を調べました。グループでの話し合いの場面では、なぜこの図形は形が同じで、大きさがちがう図形だといえるのか、理由を友達に説明しながら、理解を深めました。

授業後は、友達に自分の理由を伝えるのが楽しかったと答える児童がたくさんいました。

研究協議会では、授業を参観した南部管内の教員や市町教育委員会指導主事が、本日の授業を中心に、アクティブ・ラーニングの推進と教員の指導力向上について、活発な協議を行いました。

学力向上に向けた戸田市の取組や喜沢小学校の実践を、他市町へ紹介するよい機会となりました。



戸田市教育委員会さんが写真2件を追加しました。

教育長の戸ヶ崎です。本日午後4時から、私が委員を務める中央教育審議会教育振興基本計画部会の第8回会議が、TKPガーデンシティ永田町ホールで行われ出席してきました。

教育政策の基本的な方針等の検討に際し、追加すべき検討の視点等についての意見交換を行いました。先の中央教育審議会総会において、「日本の教育の優れた部分の国際的な価値を見極め、輸出産業にしていけることが重要。良いものを売るように転換していかなければ、じり貧となる。」という御意見もあり、「日本の優れた教育を世界で展開する」という視点について、慎重・肯定の両面から活発な意見が出されました。

2030年以降の社会・現状を見据えた日本の将来の教育のあり方についての、私を除き多くの幅広い領域の専門的な知見を有した方々が真剣に熱い議論を交わしており、いつもながらたいへん勉強になります。私も必ず一度は意見を述べています。

※議事要旨・議事録・配付資料... もっと見る

